

134 たとえ話(1)「見失った羊」「無くした銀貨」

ルカによる福音書 15 : 1~10

▶「見失った羊」のたとえ (ルカによる福音書 15 : 1~7、マタイ 18 : 12~14) The Parable of the **Lost Sheep**

01 徴税人や罪人 (たち) が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。

→ローマ帝国は徴税の権利書を発行した。権利書は裕福な異邦人に与えられ、雇われた地元の人が税を徴収した。当時のユダヤ人は徴税人を宗教的に汚れていると考え、裏切り者と見なした。

罪人は、律法によれば不浄か、または神に不従順な人々のことを言う。イエスは、神がどれほど罪人を気にかけ、神の民の共同体に迎え入れたいと望んでいるかを教えたかった。イエスはすべての人が罪深く、神に立ち帰るべきだと説いた。

02 すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている (もしイエスがメシアであるなら、このような人たちとは交際しないはずだ)」と不平を言いだした。

【参考】コーシャ/コーシエル

食事規定は「カシュルート」、食べてもよいとされる物は「コーシャ」(コーシエル、コーシヤー、カシエル、カーシェール等)、ユダヤ教上適切に処理された食事は「コーシャミール」と呼ばれます。イスラム教では、「ハラール」です。

欧米を中心とした市場ではユダヤ教のラビによる審査に合格したコーシャ認証マークは商品品質のお墨付き的な存在になっている。



03 そこで、イエスは次のたとえを話された。

04 「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人 (→羊飼いはイエス) がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹 (→ファリサイ派の人々や律法学者たち) を野原に残して、見失った一匹 (→悔い改めて、イエスを受け入れた罪人) を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。



05 そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、06 家に帰り、友達や近所の人々 (→神の友、イエスを受け入れた信者) を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。

07 言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

→ (リビング・バイブル) それと同じことです。迷い出た一人の罪人が神のもとに帰った時は、迷ったことのない九十九人を合わせたよりも大きな喜びが、天にあふれるのです。

→一緒に喜んでください : ルカによる福音書 15 : 6 と 15 : 9 の2か所にしか登場しない表記です。

▶ 「無くした銀貨」のたとえ（ルカによる福音書 15 : 8~10） The Parable of the **Lost Coin**

08 「あるいは、**ドラクメ銀貨**（＝ドラクマ銀貨）を十枚持っている女（→聖霊）がいて、その一枚を無くしたとすれば、**ともし火**（→御言葉）をつけ、家を掃き（→罪人の内側を探り、清め）、**見つけるまで念を入れて捜さないだろうか。** 09 **そして、見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください』**と言うであろう。

→ドラクメ（ドラクマ）：ギリシア銀貨、＝1デナリオン

＝一日分の農夫の賃金＝羊一匹の値段。

→ともし火は、御言葉（神の言葉）を象徴している（詩 119:105、130）。

右：裏面(フクロウ)
左：表面(アテナ女神)



10 **言うておろが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」**

【参考】羊

羊は、ウシ科ヤギ亜科のヒツジ属で、山羊と違い、草以外の食べ物を消化することができない。聴力はよく、視力は水平に細い瞳孔を持ち、優れた周辺視野（270~320°で、頭を動かさずに自分の背後を見ることができる）をもつ。しかし、奥行きはあまり知覚できず、影や地面のくぼみにひるんで先に進まなくなることがある。暗いところから明るいところへ移動したがる傾向がある。一般的には、毛がもこもこ生えているのが特徴である。角はぐるぐると渦を巻いて伸びており、尻尾は長く下向き、あごひげはない。性格は、温厚でおとなしい・臆病などといわれ、山羊と正反対である。羊の毛は、保湿性と保温性に優れているため、多くに利用されている。



【参考】悔い改め(メタノイア metanoia)

①悔い改め（メタノイア、ギリシア語）に対応するヘブライ語は、「ニツハム」（＝have compassion with）つまり「痛み、苦しみを共感・共有する」ということです。

→完全な方向転換、悔い改める＝自分の心を変えることで、救いを獲得するための行いではない。

→悔い改めて、神の前にへりくだった民を、神は神の御心にかなう言動ができるようにしてくださる、と約束しておられます（申命記 30 : 1~10）。

→「悔い改めて福音を信じなさい」と言われた（マルコによる福音書 1 : 15b）。

→わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。

だから、熱心に努めよ。悔い改めよ（黙示録 3 : 19）。

→聖書には、「悔い改め」という言葉が全部で 71 回登場します。旧約聖書には、11 回登場（聖句数 11）し、新約聖書には、60 回（聖句数 56）します。

②蓋世功労、当不得一個矜字。弥天罪過、当不得一個悔字。（菜根譚 前集 18 項）

→世を蓋(おお)うの功労も、一個の矜(きょう)の字に当たり得ず。天に弥(わた)るの罪過も、一個の悔(かい)の字に当たり得ず。

→罪は悔改めることによって消える。一時代を圧倒するような大きな功績(手柄)も、それを誇る(＝矜)ようでは台無しになってしまう。空一面に轟く様な大きな罪も、悔いの一文字に太刀打ちできない(悔いて反省すれば帳消しになる)。自分のした罪を認め、詫び、償い、同じ過ちを繰り返さないためのあらゆる努力をしなければならない。

③人聖人に非ず。誰か過ち無からん。過ち有りとも、之を知りて能(よ)く改むれば、即ち過ち無きに帰す（「慎思録(しんしらく)」貝原益軒）。

④過ちて改めざる、是を過ちと謂う（「論語」孔子）。

